令和６年度　福岡県学力調査結果と分析について

１　福岡県学力調査実施状況（実施：令和６年６月）

（１）調査学年・科目

小学校（対象学年：５年生）　国語、算数

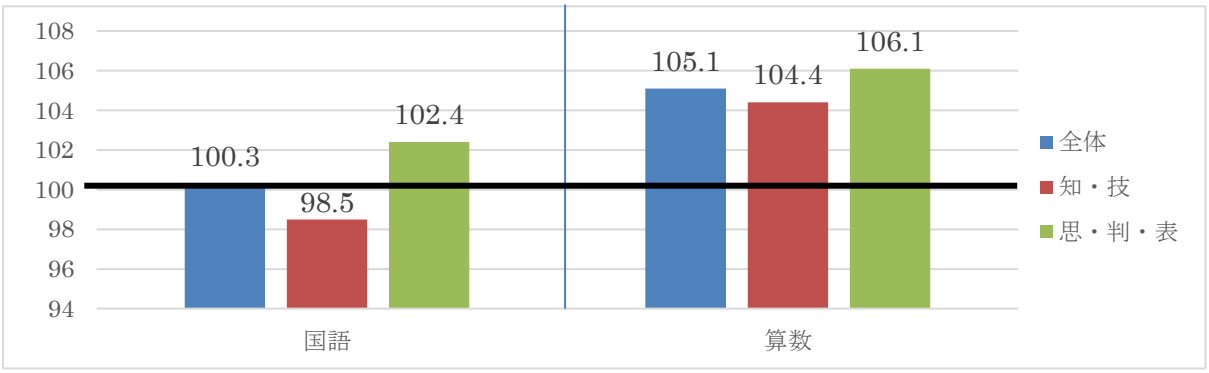
中学校（対象学年：１年生及び２年生）　国語、数学

（２）参加状況（代表値：国語）

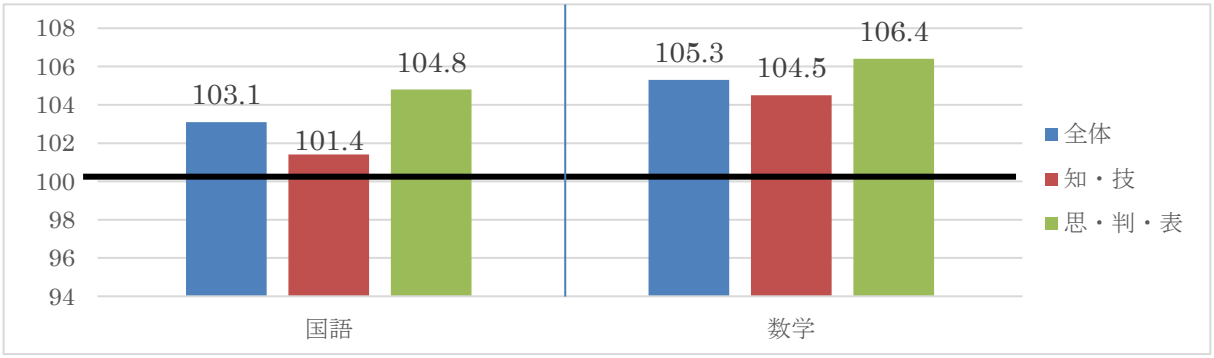
小学校	５年生	福岡県：21,845 人	糸島市：930 人
中学校	１年生	福岡県：21,818 人	糸島市：837 人
	２年生	福岡県：21,447 人	糸島市：820 人

２　平均正答率（全体及び観点別）　※県平均を 100.0（太線）とした標準化得点に換算

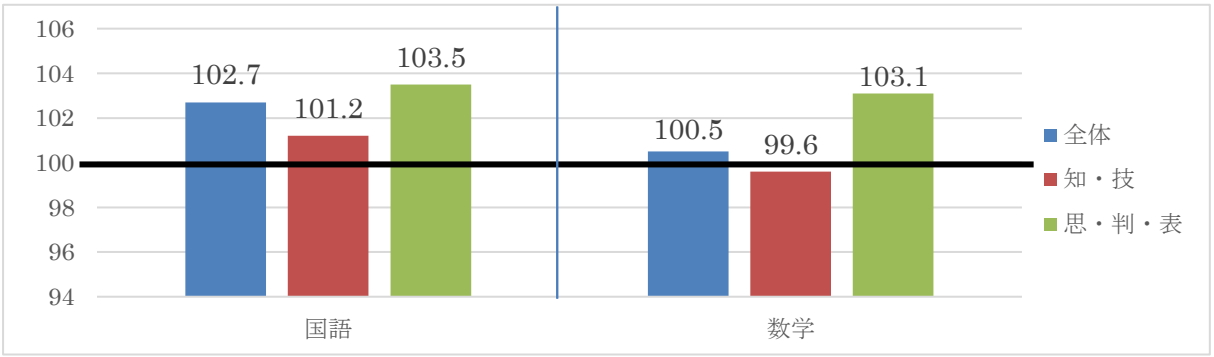
（１）小学校　第５学年



（２）中学校　第１学年



（３）中学校　第２学年



- ❑　小学校、中学校（1,2 年生）ともに両教科で県平均を上回った。
- ❑　小学校、中学校（1,2 年生）ともに「知識・技能」より「思考・判断・表現」が高い。
- ❑　小学校国語の「知識・技能」と中学校２年生数学の「知識・技能」が県平均より低い。

４　結果から見えた糸島市の課題

【小学校　第５学年】

○　報告する文章に関する問題で、読み手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることに課題がある（昨年度課題が見られた問題と出題の趣旨が同様の問題）。

○　三角形定規を組み合わせてできた形が長方形になる理由を、角の大きさに着目して説明することに課題がある。

【中学校　第１学年】

○　報告する文章に関する問題で、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題がある。

○　数と計算の問題で、示された考えに従って数量の関係を読み取ることに課題がある。

【中学校　第２学年】

○　話し合いの一部について考える問題で、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分に注意して、話の構成を考えることに課題がある。

○　図形の問題において、２つの立体の表面積の関係について、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

【小中共通】

○　小学校、中学校の国語において、目的や意図に応じ、自分の考えや理由が明確に伝わるように整理して記述する問題で正答率が低い傾向にあり、系統的な指導が必要である。

○　全体的に思考・判断・表現を問う問題の正答率が高く、知識・技能を問う問題の方が低い傾向にある。

５　福岡県学力調査を踏まえた今後の取組

糸島市学力向上プランに基づいて、下記の取組を行う。

（１）　学習指導の日常的な改善

- 発達段階に応じて視点を明確にしながら、文章を読んで理解したことや考えたことを整理・説明・表現する言語活動の位置付けと指導の強化
- 学習支援ソフトに蓄積された個別の学習状況を活用して知識・技能問題に対するつまずき等を把握し、取り組む個別学習の充実（家庭学習におけるＩＣＴ活用の推進）
- 自分で課題を見つけ、その課題の解決に向けて、自分で考え自分で取り組む学習の充実

（２）　調査結果分析と自校の課題・状況に基づく効果的な学力向上プランの作成と効果的な活用

【各学校】

- 各学校での結果分析を基に、取組の評価を行い、令和６年度～令和７年度学力向上プランを作成・活用し、全教科・全学級で徹底して取り組むことができる内容（例えば、発達段階に応じて書かせる内容や考える視点を明確にした言語活動等）の設定
- 作成した令和６年度～令和７年度学力向上プランに基づく授業改善の検討と実践

【教育委員会】

- 学び方や課題に応じた今後の目標と取組を共有するための、小中合同研修会の実施
  （学力向上プランに基づく各学校の効果的な取組の共有化と改善）